

「みる」スポーツ・スポーツ文化について考える

保健体育選修 准教授 中嶋 哲也

スポーツを社会の鏡としてみる

スポーツでは人前に運動する身体がさらされます。それによって、勝敗等の判定がなされるのですが、一方で、お客さんや報道は、選手やチームの外見から様々な見解を述べます。なぜ、〈黒人〉は身体能力が高いといわれるのでしょうか？なぜ、スポーツをする人達は健康で逞しくみえるのでしょうか？

また、私たちは人を見た目で判断しがちですが、その判断は個人的なもののように、無意識のうちに周りの目の気にしながら発言された社会的なものかもしれません。私の研究は、身体を社会的なものを映し出す鏡としてとらえます。それは「みる」スポーツの視点を豊かにするものだと考えております。

スポーツ文化の国際比較：柔道を事例にして

日本のお家芸柔道。オリンピックで毎回金メダルをたくさんとる競技です。しかし、危険なイメージ、堅苦しいイメージ、勝利至上主義が先行するからか、その競技人口は年々減少しています。

一方、フランスでは柔道の人気が凄まじく、実践者の数は日本の約三倍とも四倍ともいわれています。どうして、日本では人気がないのに、フランスでは人気なのか。調べていくうちに、日本とフランスの間には柔道に対する考え方、柔道を取り巻く社会・歴史的背景に違いがあることが分かりました。例えば、フランスには日本の部活動に相当する活動がありません。またフランスでは柔道の指導には国家資格が必要です。柔道という一つの種目から日本と他国のスポーツ文化の違いがみえてきました。その成果を『フランス柔道とは何か』（青弓社、2022年）としてまとめました。

